



円応山妙光寺 1

日蓮宗寺院。本尊十界曼陀羅。慶長4年(1599)遠明院日光が梅田村(五所川原)に開創と伝えられます。その後荒廃しましたが、延宝3年(1675)開庵院日応と弘前法立寺13世日禪が再興、元文3年(1738)教応院日勇の時に十川の水害を避けて柏木村(板柳)へ移転しました。明治29年(1896)焼失、昭和50年(1975)現本堂が建立されました。



■妙光寺日蓮上人坐像

文化3年(1806)日蓮宗大仏師林如水作と考えられる木像。両手の持物は失われていますが、本来は右手に笏、左手に経典を手にしていたと推定されます。

柏木八幡宮 2

祭神菅田別尊。寛文13年(1673)建立、貞享2年(1685)再建と伝えられます。安永5年(1776)柏木組17ヶ村の祈願所になりました。

天明飢饉供養塔(五幾形) 3

天明3・4年(1783・84)飢饉供養碑。天明飢饉から50回忌に相当する天保3年(1832)五幾形村中が建立しました。

板柳町立郷土資料館 4

昭和43年(1968)郷土資料室として旧板柳中学校校舎の一角に開設されました。昭和48年(1973)町立郷土資料館として本格オープンし、農具・生活用具をはじめ、消防資料、郷土芸能資料、縄文晩期土井(1)遺跡出土資料などを展示しています。なお、資料館玄関は、旧板柳町役場庁舎玄関を移築したものです。開館時間 9:00~16:00/休館日 毎週日・月・水・金曜日、祝日・振替休日、



年末年始(12/28~1/4)/観覧料 無料/TEL0172-72-0330

●木山竜淵寺 5

曹洞宗寺院。本尊釈迦牟尼仏。開創については、慶長2年(1597)梅林寺(弘前)8世不歩雲甫が隠居所として板屋野木村(板柳)に開山、慶安2年(1649)3世節山雲貞に至って現山寺号を称したとする説と、慶安2年不歩を勧請開山として創建されたとする説、また寛永9年(1632)草創説などがあります。地藏堂に安置される青銅釈迦如来立像は、延享2年(1745)板屋野木村の豪商若狭屋儀兵衛が寄進したものとされ、表面の色より黒仏とも称されます。

■天明飢饉供養塔(龍淵寺)

天明3・4年(1783・84)飢饉供養碑。天明飢饉から23回忌に相当する文化3年(1806)板屋野木村中が建立しました。

無量山大善寺 6

浄土宗寺院。本尊阿彌陀如来。元和元年(1615)頓蓮社良教兼海が梅田村(五所川原)に草創、慶安2年(1649)2世善廓のときに、板屋野木村(板柳)へ移転しました。明和3年(1766)の大地震で焼失しましたが、22世硯舎が本堂を、27世寿源が庫裏を再建しました。現在の本堂は昭和48年(1973)再建。円仁(慈覚大師)作と伝えられる地藏菩薩は火難除け、また胎内仏は安産祈願の地藏尊として知られています。

板屋野木渡 7

岩木川中流部、現在の幡龍橋付近、板屋野木村(板柳)と対岸の青女子村(弘前市)を結ぶ渡場。寛永年間(1624~44)設置されたと伝えられます。明治13年(1880)の記録では、幅90間(164m)・馬船1艘・小船1艘となっています。明治23年(1890)幡龍橋架橋に伴って廃止されました。

板屋野木湊

岩木川中流部の板屋野木村(板柳)にあった河港。文禄2

年(1593)津軽為信によって整備され、寛文3年(1663)には弘前藩の御蔵も置かれました。同湊までは、百石積の船が漕上可能であり、十三湊を経て鱒ヶ沢湊に至る十三廻船の中心地として賑わい、元禄3年(1690)には63艘の川船があったとされます。

土井(1)遺跡 8

岩木川右岸の自然堤防上に立地する縄文晩期の遺跡。昭和36年(1961)水道工事中に発見され、工藤泰博・板柳町教育委員会ほかの調査により、精巧な亀ヶ岡式土器や土偶が大量に出土しました。また、出土例の少ない岩版や岩偶、石刀・玉類など祭祀的な遺物、櫛・腕輪・藍胎漆器ほかの漆製品、サメの歯なども発見されています。これらの出土資料の一部は、板柳町立郷土資料館で見学することができます。

五雲山正休寺 9

真宗大谷派寺院。本尊阿彌陀如来。正保3年(1646)左比内(弘前)の旅僧が板屋野木村(板柳)に開いた庵に、万治2年(1659)真教寺(弘前)6世順誓が入寺、板屋山正休寺を号したとされます。明治初年山号を五雲山に改めました。寺宝の五劫思惟如来は、会津蒲生氏が津軽に落ち延びた時に所持していたもので、子孫が10世智順の代に寄進したと伝えられます。

経王山長延寺 10

日蓮宗寺院。本尊十界曼陀羅。文禄2年(1593)中畑村(弘前)に創立、その後廃れましたが、万治2年(1659)再興、延宝元年(1673)中興を迎えました。延宝3年(1675)板屋野木村(板柳)に移転、開基は正行院日典とされます。



海童神社 11

祭神上津綿津見命・中津綿津見命・底津綿津見命。文禄2年(1593)津軽為信が、海上安全を祈願して海神を祀った宝量宮が起源とされます。その後衰退しましたが、正保元年(1644)大昨主命・虚空蔵を祭神として川端町(板柳)に再興、承応元年(1652)現在地に移転しました。明治6年(1873)神仏分離によって海童神社と改め、祭神も現在の海神三神となりました。社宝の神輿は、当地の豪商若狭屋儀兵衛が播磨国赤穂浅野家から買い上げ、元禄15年(1702)奉納したものと伝えられます。



無量庵イチイ[県天然記念物] 12

浄土宗無量庵境内に立つイチイ。推定樹齡700年・樹高7m・幹周302cm。同地は、藤崎安藤氏のころ栄えた諏訪氏の屋敷跡、あるいは浪岡北畠氏遺臣の屋敷跡と伝えられます。

滝井館跡(古館) 13

十川左岸の微高地に立地する中世城館。「古館」「館野越館」とも称されます。永禄元年(1558)浪岡御所北畠具運の弟、頭範が浪岡城の西の護りとして築いたと伝えられます。天正6年(1578)浪岡城落城後は、一時空き城となりましたが、慶長5年(1600)頭範の孫頭佐が再興しました。その後は山崎姓を名乗り、代々庄屋・医者を務めました。明治15年(1882)北畠姓に復しました。江戸中期の山崎立村は、北畠家記『永禄日記』を編纂するとともに、菅江真澄と交流があったことでも知られます。

